

# 常陸大宮市

題目	有機農業に関するアンケートの実施及び有機農業推進計画策定委員会を開催しました。
内 容	<p><b>【アンケートの実施】</b></p> <p>本市では、「持続可能な社会の実現」に向けた取組を図るとともに、付加価値を高めた農産物生産の取組を進めることにより「農業の振興」を図るため、有機農業を推進することとし、「常陸大宮市有機農業推進計画」の策定作業を進めています。このため、今回、市民参加型の計画策定を目指し、市内の農家や流通・販売事業者、消費者への<u>アンケート調査を実施し、合計で450人の方から回答（調査対象801：回収率56%）</u>がありました。農家からの回答で、半数の方から「魅力があり広めて欲しい」、さらに、推進に必要なこととして「栽培技術の確立」などがありました。一方で、消費者からの回答では、「消費者へのPR」などがありました。</p> <p><b>【委員会の開催】</b></p> <p><u>令和3年12月2日（木）に委員会（11名の有識者で構成）を開催</u>し、まず、委員長の選出で学識経験者である元茨城県農業総合センター長の加藤氏が選任され、続いて、事務局からのアンケート結果の説明後、意見交換を実施しました。主な意見としては、有機野菜の栽培に取り組んでいる古東委員から「地域の魅力の発信や、オーガニックによる地域発展も考えられる」との意見や、現場で栽培技術の支援に携わっている清水委員からは、「現在、県でオーガニックに特化した研修を実施しているところであり、栽培マニュアルを含め、今後、情報提供や支援を進めていく」といった意見などがありました。委員会において、各委員から出された意見については、今後、事務局で整理し、計画（案）への反映について委員長と検討を行ったうえで、議会への説明や、市民へのパブリックコメントの実施を経て、年度内に計画決定する予定です。</p>
問合せ先	産業観光部農林振興課農業畜産グループ 電話 0295-52-1111（内線 206）

## 常陸大宮市 有機農業推進計画策定委員会及びアンケート結果について（概要）

- 令和3年12月2日（木）午前10時から、常陸大宮市役所において、常陸大宮市有機農業推進計画策定委員会を開催しました。これまで、常陸大宮市では、付加価値を高めた農産物の生産と、持続可能な農業の推進を図るため、有機農業推進計画策定の検討を進めてきたところですが、学識経験者等の有識者からの意見を聞くために委員会を開催したものです。
- 委員会の開催にあたり、まず、河西産業観光部長から、委員会設置の趣旨を含めた挨拶をし、その後、委員長の選出が行われ、委員長には、学識経験者である元茨城県農業総合センター長の加藤氏が選任されました。なお、委員会は全体で11名の有識者によって構成され、有機農業者を含む3名の農家や、栽培技術の指導・支援を行っている農業改良普及センター、また、農協や、流通販売の面からは地元の大型店や道の駅、消費の面からは市の関係団体からの推薦により、さらに、学校給食の観点から校長会の代表者が委員となっております。
- 委員会においては、まず、県北農林事務所から、県北地域における有機農業の取組状況等の説明がありました。具体的には、常陸大宮市三美地区に参入した農業法人の有機農業の取組事例をはじめ、これまで、約50年近く、有機農業に取り組んでいる日立市の有機農家、また、米価の下落等により閉塞感を感じたことから、有機米の生産も始めた大子町の稲作農家、約20年前に、東京から常陸太田市に転入し、夫婦で野菜栽培に取り組んでいる有機農家や、福島から高萩市に転入し、夫婦で野菜栽培を始めて約5年近くになる有機農家、さらに、アイガモを活用して有機米の生産に取り組んでいる常陸太田市の稲作農家など、多様な取組事例の説明がありました。引き続き、来年2月に、県などが主催で「有機農業圃場技術検討会」を常陸大宮市の三美地区で開催を予定している旨の説明や、さらに、国の「みどりの食料システム戦略」における有機農業に関する取組の位置づけや、今後の方向性、取組推進において関係機関の連携の重要性の説明や、加えて、県においても、取組の促進を図るために、国の補助に対して、県の上乗せ補助を実施している「いばらきオーガニックステップアップ事業」の活用により重点的に支援している旨などの説明がありました。
- 続いて、今回、常陸大宮市での有機農業・有機農産物に関する意見を聞くために、農家や流通販売事業者及び消費者へのアンケート調査を実施し、合計で450名の方から回答（調査対象801：回収率56%）があった結果の概要について、常陸大宮市（農林振興課）から、次のような説明をしました。

### （農家へのアンケート結果）

- ・有機農業に関しては、グラフ1のように、回答者のうち、半数の方々から、「魅力があり、広めて欲しい」といった結果があり、有機農業の取組については、グラフ2のように、「したことがなく、今後もしない」といった回答が半数近くございました。
- ・一方で、有機栽培の研修会への参加については、グラフ3のように、3分の1近くの方々から「参加したい」との回答がありました。
- ・次に、一般的に、有機農業が知られていると思うかの質問に対しては、グラフ4のように、半数以上の方々から、「まだまだ知られていない」との回答がありました。
- ・次に、有機農業の推進には、何が必要だと思いますかの質問に対しては、グラフ5のように、「栽培技術の確立」が最も多く、続いて「栽培コストの削減」「栽培技術の研修支援」「販路の確保」などがありました。
- ・なお、学校給食の有機農産物の使用については、グラフ6のように、「出来たら、進めて欲しい」という回答が最も多く、「ぜひ、進めて欲しい」も含めると、約7割の方々から「学校給食への有機農産物の使用」を回答していました。

(流通・販売事業者へのアンケート結果)

- ・食品を取り扱う場合の判断基準に関しては、グラフ1のように、「味」が最も多く、続いて「価格」、「安全・安心」などがありました。
- ・また、有機農産物について意識をしているかという質問については、グラフ2のように、「意識している」と「意識していない」との回答が、ほぼ均等の結果でした。
- ・次に、有機農産物の取扱については、グラフ3のように、現在、多くの回答が「1割以下」でありました。
- ・一方、今後の有機農産物の需要、消費者の有機農産物の購買意欲の見込みに関しては、グラフ4のように、今後において「増加」傾向が見られ、「減少」との回答は僅かでした。
- ・さらに、今後の有機農産物の取扱の見込みについても、グラフ5のように、今後において、「増加」傾向が見られ、「減少」との回答は僅かでした。
- ・なお、有機農産物の販売推進には、何が必要だと思いますかの質問に対しては、グラフ6のように、「値段」が最も多く、続いて「品質」、さらに「消費者の理解」などがありました。

(消費者へのアンケート結果)

- ・食品を選ぶ際の判断基準に関しては、グラフ1のように、「安全・安心」が最も多く、続いて「価格」「新鮮・日持ち」などがありました。
- ・また、有機農産物の購入については、グラフ2のように、7割近くの方が「購入したい・購入している」との回答でした。
- ・なお、購入したい・購入している理由としては、グラフ3のように、多くの回答が、「安全・安心な食べ物」とのことでありました。
- ・一方で、購入を考えていない理由としては、グラフ4のように、「値段が高い」という回答が最も多く、次に「売っているところが、わからない」との回答がありました。
- ・続いて、有機農産物の販売推進に、何が必要だと思いますかの質問に対しては、グラフ5のように、「消費者へのPR」が最も多く、続いて「値段」「消費者の理解」などがありました。
- ・さらに、学校給食への有機農産物の使用については、グラフ6のように、「出来たら進めて欲しい」という回答が最も多く、「ぜひ、進めて欲しい」も含めると、約9割もの方々が、「学校給食への有機農産物の使用」を回答していました。
- ・最後に、有機JAS認証の制度に関しては、グラフ7のように、「あまり知らない」という回答が最も多く、「知らない」も含めると、約6割の方々となり、依然として、有機JAS認証制度の認知度が低いという結果になりました。

- 事務局からの説明の後、委員による意見交換が行われ、各委員から専門分野における意見や幅広く提案等があり、主なものとしましては、次のようなものがありました。

(古東委員)【有機栽培農家】

- ・自分は個人の経営体であり、小さな有機農家への支援や、地域の魅力発信に協力したい。オーガニックによる地域発展も考えられる。農業が魅力的な産業となるようにしたい。

(海野委員)【特別栽培農家】

- ・自分は特別栽培により、トマト栽培をしている。味が一番であり、特に、気象に左右され、化学肥料も必要なこともある。防虫ネット等の対策はしているが、有機栽培は、今は難しい。

(藤田(博子)委員)【女性農業士】

- ・イチゴや米、そば、ネギを栽培しているが、今、後継者不足なので、若い人に農業に取り組んで欲しい。そのためには、収益のあがる農業、魅力のある農業が大事。

(山崎委員)【教育関係：常陸大宮市 校長会長】

- ・食育が重要、学校給食はほぼ毎日であり、安全性やアレルギーに気をつけている。地元の農産物を使用することで関心が高まる。一方で、給食費を考えると、価格の面で苦労している。

(海老根委員)【消費者関係：常陸大宮市PTA連絡協議会 副会長】

- ・子供たちの野菜離れがある。本来のおいしい味を知らなくなっている。有機栽培や有機農産物について、市報にも出して、PRして欲しい。

(川崎委員)【消費者関係：常陸大宮市PTA連絡協議会 女性ネットワーク委員長】

- ・安心感があるので、出来るだけ顔写真があるものを買っている。大人だけでなく、子供たちの発信力は大きい。学校を通して、色々なことが広がる。

(大内委員)【販売流通関係：イオンリテール株式会社 イオン常陸大宮店長】～代理：小幡氏～

- ・現在、数パーセントではあるが、(店内に)オーガニックコーナーがある。消費者の求める価格がある。一方で、生産者においてはコストに見合った価格設定が必要で、そこが難しいが、定着を目指している。

(鈴木委員)【販売流通関係：道の駅 常陸大宮「かわプラザ」 駅長】

- ・卵でも、普通のもの、平飼いのものとは、見た目には(消費者には)わからない。表示(説明)があるからわかる。(オーガニックにおいても)PRの工夫が必要。

(藤田(敏美)委員)【農協関係：JA常陸 大宮営農経済センター長】

- ・JAの組合員が部会を設けており、有機栽培の意見はあるが、取組にはいたっていない。子会社のアグリサポートでは、近いうちに取り組むことを考え、ノウハウ含め、情報収集を進めている。

(清水委員)【行政関係：茨城県常陸大宮地域農業改良普及センター長】

- ・現在、県でオーガニックに特化した研修を実施しているところであり、栽培マニュアル等を含め、今後、情報提供や支援を進めていきたい。

(加藤委員長)【学識経験者：元 茨城県農業総合センター長】

- ・地域に根差した生産者をいかに増やすか。例えば、県内において有機農業については、やささがメッカと言われており、JAやさとの研修システムのようなものが必要。研修生の受け入れが大事。「農の雇用事業」などもあり、色々な支援策を活用しながら進めていくことも必要。

- 委員会において、各委員から出されました貴重なご意見・ご提案につきましては、今後、事務局で整理し、計画(案)への反映につきまして、委員長と検討を行ったうえで、市議会への説明や、さらに、市民へのパブリックコメントの実施を経て、年度内の計画決定を予定しております。

◆ 写真

【部長挨拶】



【委員長挨拶】



【委員会（正面）】



【委員会（横）】



【古東委員からの意見】



【海野委員からの意見】



【藤田（博子）委員からの意見】



【山崎委員からの意見】



【海老根委員からの意見】



【川崎委員からの意見】



【大内委員（代：小幡氏）からの意見】



【藤田（敏美）委員からの意見】



【清水委員からの意見】



【加藤委員長からの意見】

